環境だより

清掃課 ☎57◆4100

ごみ出しルール～30cm以内編～

毎年、クリーンセンターから配布している「ごみの出し方チラシ」に、可燃ごみは30cm以内と書かれていることは、皆さん、ご承知のことと思います。では、なぜ30cm以内なのでしょうか。焼却炉の入口が小さいからとお考えの方もいらっしゃるのでは。いいえ、そうではありません。

ごみを燃やすと、ごくわずかな有害ガスが発生します。また、燃え残りが灰として蓄積します。このガスや灰を少なくするため、「30cm以内で」とお願いしています。

市では、「流動床」（りゅうどうしょう）方式の炉を採用しています。この炉の特色は、高温で短時間にごみを燃やすことで、有害なガスや灰を少なくするところです。しかし、ごみをより瞬時に燃やしてしまうには、ごみが小さくないといけません。ここに「30cm以内で」の理由があります。

例えば、同じ木でも「角材とかんなくず」では、かんなくずの方が早く燃えますよね。それと同じです。小さくすれば、高温で燃やすことによって、より瞬時に、より完全に燃やしてしまうことができます。瞬時に燃えたときの灰は、炉に残るのではなく、蚊取り線香の灰のように完全に燃えきって、煙突の手前に設置されたフィルターで、白い粉のような状態で回収されます。この最小限になった灰を最終処分場で処分しています。

クリーンセンターでは、これからの環境を守り、限りある最終処分場が少しでも長く使えるように努力しています。しかし、皆さんの協力がなくてはなりません。ごみだしルールのご協力をお願いします。

消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html

誰かいますかぁ～人命検索～

誰かを探す時、皆さんはどのようにしますか。たぶん、大声で名前を呼び、応えてくれるのを待つか、手当たり次第に探し回るのではと思います。

消防士も、火災現場で人を探す（人命検索）時は同じです。「誰かいますかぁ」と声をはり上げ、建物内をくまなく歩き回ります。ただ、皆さんと違うのは、真っ暗で煙が充満し、がれきが今にも崩れ始めそうな危険な場所で人を探すことです。それは、一歩間違えば、暗闇の中で隊員同士を見失い、果ては出口さえも塞がれるという、まさに命がけの人探しなのです。そのため、検索時は隊員同士を命綱で結び、やみくもに動き回らず、壁づたいに体勢を低くし、ゆっくりと進んでいきます。

人命検索は、まず、隊長の「人命検索開始」の掛け声から始まります。各隊員が空気呼吸器を着装し、隊員間を一本のロープで結び、「発見は3回、脱出は2回、緊急時は連続」でロープを引くという合図の確認をします。一度、建物内に進入すれば、お互いの声もはっきりと聞こえず、周りの視界も悪いため、この合図がとても重要です。これらの準備作業を経て、いざ、現場へ突入、となるわけです。

また、現場がどんな状況でもあわてないために、消防士は、人命検索の訓練を欠かしません。目隠しをし、さらに、部屋を完全に覆って、人工的に暗闇をつくり訓練を行なってます。訓練とはいえ、目の前が真っ暗で戸惑い、隊長に怒鳴られる隊員もいますが、本番では必ず〝暗闇の中の大切な命の声〟をつかむために、何度も何度も大声をはりあげ、訓練を繰り返しています。

「誰かいますかぁ！」